

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100213		
法人名	社会福祉法人ほたか会		
事業所名	グループホーム城東		
所在地	前橋市城東町三丁目10番10号		
自己評価作成日	平成29年6月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成29年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年5月に開設をし6年を迎えました。「グループホーム城東は地域との架け橋をします」のローガンのもと、地域行事への参加、コンビニエンスストアを利用するなど、近隣との交流に力を入れています。また、重度な認知症症状の方も積極的に受け入れ、地域でその方らしい生活が送れるよう援助させて頂いております。今年は体を動かすレクリエーションに力を入れており、フラダンスサークルの立ち上げをし余暇の時間に体を動かして頂いております。グループホーム城東は、近隣住民の方などのご協力のもと地域との交流を深めながら、入居者様に喜んで頂ける企画を模索し、施設全体のサービスの向上の底上げを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は認知症について正しく理解しており、利用者への対応が適切に行われている。単純な日常生活の繰り返しにならないよう、利用者が心から楽しめる場を設けており、フラダンスサークルや生け花サークル、地域の方の協力による童謡ボランティアの訪問等が行われている。たまたま童謡ボランティア訪問の機会に同席したが利用者は心から楽しんでいる様子が伺えた。食に対しての心配りが見られ、刻み食の利用者に対してメインになる料理を写真で示したり、お茶の時間には写真付きのメニューを示して利用者が好みのものを選択出来るような配慮が見られる。共有空間や居室には特有の臭いが無く、衛生管理が行き届いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義及び法人の理念を踏まえた運営理念を作り、それを目標に業務を行えるよう、毎日朝礼で読み上げ職員と共有しております。	地域との関わりを盛り込んだ理念を定例会議や朝礼の時に確認し、実践につないでいる。対応に問題ありと感じた時には必要に応じ管理者、主任、チーフリーダー等が注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収や地域の夏祭りなどの行事に参加させて頂いたり、セブンイレブンでのお買い物、施設内行事のお知らせを回覧板で回してもらおうなど交流を図っております。	廃品回収、地域行事への参加、地元商店での買物や公園の散歩、ボランティアの訪問、事業所行事を回覧板で知らせ参加を呼びかける等と交流が実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館でのピンシヤン体操への参加、地域内の小学校との交流を通じて、都度認知症の特徴や理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流の回り方について伺ったりホーム内行事へ参加頂き、意見を伺ったりと参考になっております。	会議は2ヶ月に1回、家族代表・地域住民・市の担当者等の参加で開催されている。事業所から行事や利用者の状況の報告、防災訓練等について意見交換が行われ、実践に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前橋市主催の集団研修に参加。また、運営推進会議でのご意見は、大変参考になります。	管理者が市の担当者を訪問して報告や相談事を行っている。市主催の研修会に参加しており、行政との連携を大切にしている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外で身体拘束についての研修へ積極的に参加し理解を深めています。また、今後も積極的に参加して参ります。現在、身体拘束をしている方はいらっしゃいません。	2階建ての2ユニットで、2階へはエレベーターを利用している。玄関は常時解錠しているが、1・2階とも共用空間の出入り口はボランティアの訪問時以外の時間帯は施錠している。外に出たいという希望には職員が同行し、身体拘束に関する研修に職員は参加している。	利用者の様子を見ながら、ボランティア訪問時以外にも職員の見守りを徹底することで共用空間出入り口の解錠の時間について検討して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外で行われる研修会に積極的に参加しております。また、職員のストレス軽減を目的として管理者が年4回、職員と個別面談をし防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修が定期的に行われているので、積極的に参加していきます。また、ご家族様から相談があった際には随時対応していきます。マニュアルとして資料を整理し活用していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の締結・解除の際には、必ず第一保証人様であるご家族様に直接お会いして文書により説明し、要望や質問をお伺いするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様からご意見を頂戴した際には、必ず記録に残し報告。速やかに対応するよう心掛けています。また、年1回アンケートを実施しています。	利用者の要望等は日頃の会話や言動から、家族の意見や希望は家族来訪時の会話やアンケートの結果を参考にして実践につないでいる。身体を動かす機会を増やして欲しいとの要望でフラダンスサークルを始め、好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や定時報告等で意見・提案を聞く機会を設け取り入れています。また、意見・提案し易いよういつでも話を聞く姿勢でいるよう努めています。	定期的に開催する会議で管理者は職員が意見や提案を発言し易い雰囲気を作るようにしている。管理者と職員の個別面談を年に4回実施して、個人的な思いや希望を聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が向上心を持って働けるようキャリアパスを用い職員本採用・昇格時に説明しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に積極的に参加し、職員全員がスキルアップできる機会を持てるよう努めています。また、今年度は法人内の研修センター所長を月に1回講師として介護技術の勉強会を実施しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会に加盟し、地域の同業者と交流する機会があります。研修や懇親会などにも参加し、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご見学時、お話を伺う際に「今、一番何に困っているか？」というところに重点を置き、その上でどのような生活を望んでいるかお伺いし、ご本人様のご要望をできる限り繁栄できるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際にはご家族様のお話を傾聴し、利用に至るまでの様々な機会の中で、ご家族様の意向を確認させて頂きながら、信頼関係を築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、法人内の他施設と連携を図っているため、相談した上で、法人内に限らず法人外であっても、有効なサービスができるよう検討しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしてあげているのではなく介護させて頂いていると考え、人生の先輩であることを常に忘れず、尊敬の念を持ち時には、昔の風習などをお教え頂きながら関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時のニーズに応えるべく、ご家族様へ随時相談し必要な協力を得ています。全てホームで用意するのではなく、少しご家族様の手を煩わせることで関わりあえる機会をなくさないよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報に考慮し、ご本人様やご家族様の希望を伺いながら外出や面会をして頂いています。昔から馴染みのある公園へご家族様とお散歩へ行かれる方もいらっしゃいます。	家族や友人の訪問、馴染みの公園の散歩、家族との買物、お正月やお盆に自宅に帰る方等、これまでの関係継続が出来るよう支援に努めている。在宅時に見ていたテレビ番組を継続して楽しんでいる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士を近くの席にしたり、外出行事も一緒に参加できるよう工夫しています。コミュニケーションが困難な方には、職員が間に入り、関わりが持てるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで退居になられた後にも、退院後の受け入れ先について相談を伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活歴や日頃の言動・行動を把握し、意向を把握できるよう努めております。	入居時に生活歴や希望等を聞いている。入居後は日頃の関わりの中での会話や表情などから、思いや意向の把握に努めたり、家族からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の段階で生活歴をお伺いし、言動・行動の意味付けに用いています。また、担当ケアマネージャーなどの情報も重要視しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのような事に意欲を示し、興味がありどの時間にどのように過ごしたいかなどご本人様の言動や行動からのサインを見落とさないよう日々観察しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンス・モニタリングを行い、ご本人様・ご家族様の意向・希望をもとに介護計画を作成し、作成後も意向に沿った内容になっているか面会時の会話の中で伺っております。	月に1度モニタリングを行い、家族や職員の意見を参考に3ヶ月に1度、介護計画の見直しをしている。状態に変化のある時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録・日誌に職員の実践・観察内容や気づきを記載し介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・消耗品の購入・お食事など、入居者様・ご家族様のご要望にあわせ対応しております。また、短期利用もご利用頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板などからの情報や、地域の会議へ出席し情報を収集、参加できる行事には参加して頂けるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に往診を受ける協力医療機関がかかりつけ医に変更になることをご了承頂き、適切な医療を受けられるよう支援しております。また、他医療機関で定期受診が必要な場合も継続して適切な医療を受けられるよう支援しております。	入居時に従来のかかりつけ医を継続するか、協力医に変更するか選択出来ることを説明している。現在は全員が協力医がかかりつけ医で、協力医の診療科以外の受診は家族又は職員が対応、歯科については希望により訪問診療が出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を十分に活用しております。同一法人内の青梨子訪問看護ステーションの訪問看護師と連携を図りながら助言・支援を受けています。看取りの際にはエンゼルケアをしてもらえる連携も図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居様ご入院中の際にも、ご家族様へ定期的にご連絡をさせて頂き情報収集に努めております。早期退院を目指し、必要に応じて直接病院関係者と連絡をとり関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については入居ご契約時にご本人様・ご家族様から現状でのご意向を伺っております。また、主治医・訪問看護師・職員・ご家族様で終末期を支えるチームを構成しております。	入居時に終末期対応の支援について説明している。状態の変化を診ながら医師・看護師・職員等が連携し、家族の気持ちに添った対応をしている。看取りの経験があり、終末期医療について学習の機会を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時にどのようなかたちで対応するのかレクチャーを行っております。また、普通救命講習を受けたり、緊急時対応マニュアルも整備されております。実際の事故発生時に的確に対応できないことも考え、まず管理者へ連絡するよう指導しております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令上必要な防災機器の整備がされ、年2回防災訓練を実施しております。また、地域の方に防災協力員になって頂いており年4回自主訓練を実施し、職員の危機管理向上の教育に努めております。	消防者立会いで昼間を想定した総合避難訓練を利用者、職員、近隣住民の参加で年に1回実施している。自主訓練は風水害時の対応も含めて年に3回実施している。備蓄は飲料水・米・缶詰・チルド食品等、1週間分の用意がある。	いざと言う時に適切な避難誘導が出来るよう、自主訓練の機会を出来るだけ多く持つことを検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には人生の先輩であるということ を常に念頭に置き、尊敬の念を持って接するようまた、お声掛けするよう日頃から教育 しております。	職員入職時に利用者対応時の配慮すべき点 について説明している。対応等に問題ありと 感じた時には随時、個別に注意すると共に会 議においても話題として取り上げ話し合っ ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	「何がしたいですか?」「〇と□どちらがよろ しいですか?」と意思表示の難しい方でも選 択することで自己決定ができるよう工夫した お声掛けをしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表はありますが、入居者様のその時々 のご気分などにそえるよう支援しておりま す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう 支援している	ご本人様にできるだけその日着て頂く服を 選んで頂いております。また、訪問美容先を 変更したことでご希望に添えるようになりお しゃれを楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	お箸・ランチョンマットのセッティングや食後 のテーブル拭きを日課としている入居者様 もいらっしゃいます。季節の行事の際、特別 メニューの考案もして頂いております。	刻み食の利用者にはメイン料理の写真を掲 示し想像しながら食事を楽しめるよう配慮し ている。外食やお茶会時には職員と利用者 は一緒に食べている。飲み物は写真付きメ ニューにより、好みのものが選択出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	献立作成はグループ内企業に委託していま す。その方の嗜好、アレルギーなどがある 際には代替えを用意したり食器や盛り付け を工夫し摂取量確保に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後に全員の方に歯磨きをして頂いてお りますが、出来ることを尊重しながら、最後 に仕上げのお手伝いをさせて頂いております。 また、その方の口腔内やご状態に合わ せてケア用品を使用しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導にとらわれず、その方の排泄パターンなどを観察し、気持ち良く排泄できるよう努めています。また、その方が安心して使用しやすい物品を使用できるよう支援しております。	排泄チェック表を参考にし、利用者独自のサインを察知して、さりげなくトイレ誘導を行っている。居室にトイレがあり、自立の方は自己管理している。利用者の状況を見ながら適切な排泄用品の使用を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として、水分を多く摂って頂けるよう日頃よりお声掛けをしております。慢性化してしまう便秘については、医師の指示・指導のもと内服薬や坐薬でコントロールしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが、その時のご本人様の訴えや個性を捉え臨機応変に支援しております。	基本的に入浴日は決まっているが声かけをして希望に添った入浴支援をしており、週に2回の対応となっている。拒否の場合は対応者を変えたり、時間をずらす等配慮している。異性介助の場合は本人に説明し、納得しての対応となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調・体力に合わせて適度に休息をとって頂いております。夜間は安眠できるよう日中の活動量の確保に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携体制を活用しその理解に努めています。また、ユニットの個人カルテに薬説もファイリングしてあるので職員も理解できる体制になっております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んだり、お散歩へ行ったり、好きなサークルに参加して頂いたり、楽しみごと・気晴らしの支援に努めています。また、日々の観察により楽しみごとなどの把握に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常的に行っています。外出行事や外食会、お茶会も定期的に行っております。また、ご家族様のご了承のもと個別で希望時にお買い物へお連れしています。	日常的には近隣の散歩や買物での外出、ベランダでの外気浴を行っている。外食会、お茶会、紅葉狩り等の行事を計画し、楽しみながら外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、お買い物行事や、外食会のお会計の際に、ご入居者様にお支払いをして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご了承を頂いている方からの電話に関しては取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスにプランターを設置して季節のお花や野菜を育てています。館内装飾も季節感を感じさせ尚、落ち着いて過ごして頂けるよう和調での作成を心掛けています。	事業所の外観、内装共に和風の造りで落ち着いた雰囲気である。共用空間から中庭が見渡せ、季節の野菜を植えたり、ベランダに洗濯物が干してある等生活感がある。室内には行事の案内や献立を掲示しており、華美な飾りつけは無く、特有の臭いも感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者様同士で、食堂や居室にて過ごされています。居室区域は職員が主体的に業務をする区域から死角となっており、入居者様が常にみられているという意識や感覚を軽減できるよう予め設計されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居相談の段階で、ご自宅で使い慣れた家具等のお持込も可能であるとお話しています。タンスの持ち込みやご家族様のお写真を飾られている方もいらっしゃいます。	仏壇・家族の写真・身の回り品・利用者手作りのタペストリー等が持ち込まれている。各居室には手作りのカレンダーがあり、日常生活の様子を記録し、活用している方もいる。他施設から入居の場合はベッドの位置や置物の配置を同様にする等の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は全てバリアフリーで、壁には手すりを完備しています。居室前には名前を分かり易く表示し、ご自分で確認して戻れるよう工夫してあります。		